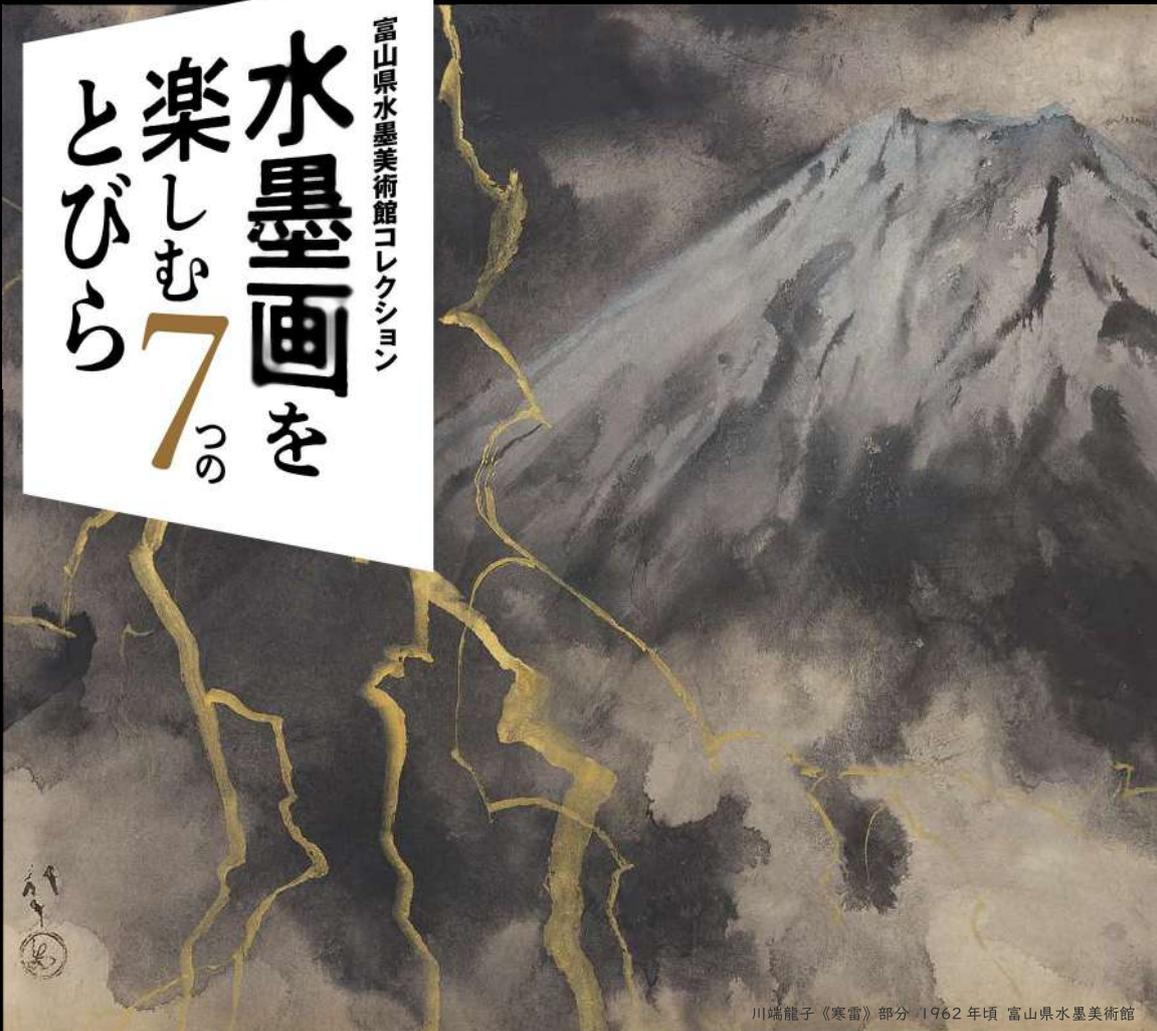


白と黒を基調とする色彩のなかに、無限の世界がひろがる――



富山県水墨美術館コレクション

水墨画を 楽しむ 7つの とびら

富山県水墨美術館コレクション

― 富岡鉄斎、竹内栖鳳、横山大観から加山又造 ―

川端龍子《寒雷》部分 1962年頃 富山県水墨美術館

会 期:2026年4月25日(土)～6月21日(日) ※会期中、一部展示替えを行います
 休館日:月曜日および5月7日(木) ※5月4日(月・祝)は開館
 主 催:茨城県近代美術館 特別協力:富山県水墨美術館
 後 援:水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK 水戸放送局／産経新聞社水戸支局／東京新聞つくば支局／
 日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／LuckyFM 茨城放送
 協 賛:株式会社常陽銀行

開会式・内覧会・記者レクチャー

2026年4月24日(金) 14:00～15:00

展覧会開幕前日に、開会式(富山県水墨美術館館長がテープカットの予定)、内覧会および報道関係者向けのレクチャーを開催します。
 担当学芸員による見どころ解説の後、展覧会場を自由にご観覧いただけます。
 参加ご希望の方は、広報担当あてに事前にメールか FAX でご連絡ください。

問い合わせ

担当学芸員:美術課 高田 広報担当:企画課 加藤 イベント担当:企画課 藤崎
 茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1 Tel: 029-243-5111 Fax: 029-243-9992
 E-mail: fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

展覧会概要

白と黒を基調とする色彩のなかに、無限の広がりを見せる水墨画の世界。墨の表現は驚くほど豊かで多彩でありながら、その深さや広がりには十分に知られているとはいえません。本展では、富山県水墨美術館が誇るコレクションから、幕末から現代に至る名だたる画家たちによる約70点を厳選し、水墨表現の奥深い魅力に光を当てます。

展覧会の見どころ

●7つの「とびら」をとおした新しい鑑賞体験

水墨画の魅力を身近に感じていただけるよう、鑑賞の手がかりとなる7つの「とびら」をご用意しました。

1. **五感でイメージーションをひらく**
視覚のみならず五感をはたらかせ想像力の翼を広げる
2. **文字と絵のコラボレーション**
賛(書)と画の響き合いを楽しむ
3. **余白・切り取りの美学を考える**
空白や構図の妙を味わう
4. **背景を読み解く**
制作のエピソードを深掘りする
5. **ディテールを探す**
画面の片隅に小さく添えられたモチーフに注目する
6. **あなたは一体だれですか？**
今では忘れられつつある東洋画題をひもとく
7. **筆の痕跡に注目**
濃淡やにじみによる墨の表情に着目する

これらの「とびら」を開けることで、水墨画との距離がぐっと近づくことでしょう。

触ったらふもふする？
けもの匂いがしそう？



平福百穂《獅子図》左隻部分 1915年



富岡鉄斎《四暢図》1894年

文字はなんて書いてある？
絵との関係は？

竹の全体像は？
空白は何を意味する？



菱田春草《竹林》1909年

●巨匠たちが紡ぐ、水墨の系譜

最後の文人画家と称される富岡鉄斎(1836-1924)。近代日本画の礎を築いた東西日本画壇の両巨頭・横山大観(1868-1958)と竹内栖鳳(1864-1942)。そして戦後日本画を革新した加山又造(1927-2004)。時代を代表する画家たちの創意あふれる試みをご覧ください。



横山大観《瀑布四題》1909年



竹内栖鳳《烏図屏風》1899年頃

●現代作家による「作り手」の視点を楽しむ

現代作家・園家誠二(1960-)は、墨と和紙を用いて“具象と抽象の境界”を探る作品を制作しています。本展では、園家が「作り手」のまなざしで当館のコレクションから2点をセレクト。セレクト作品と《月光》(富山県水墨美術館蔵)を始めとする園家作品、そして本人へのインタビューパネルをあわせて展示します。7つの「とびら」に加え、現代の作り手の視点をとおして、モノクローム表現を改めて見つめるひとときをお楽しみください。



園家誠二《月光》2011年

※掲載作品は全て富山県水墨美術館蔵

短文テキスト例

150 字

白と黒を基調とする色彩に、無限の広がりを見せる水墨画の世界。墨の表現は驚くほど豊かで多彩でありながら、その深さや広がりには十分に知られているとはいえません。本展では、富山県水墨美術館が誇るコレクションから、幕末から現代に至る名だたる画家たちによる約 70 点を厳選し、水墨表現の奥深い魅力に光を当てます。

100 字

白と黒を基調とする色彩に、無限の広がりを見せる水墨画の世界。本展では、鑑賞の手がかりとして「7つのとびら」をご用意します。多様なとびらを開くことで、水墨画の豊かで奥深い世界へとぜひ踏み出してみてください。

50 字

富山県水墨美術館の名品約 70 点を厳選。「7つのとびら」を手がかりに水墨表現の奥深い魅力に光を当てます。

関連イベント他

■クロストーク

「みるひと×つくるひと—水墨表現の過去・現在・未来」

出演：島尾 新 氏(美術史家)、園家 誠二氏(本展出品作家)

日時：5月16日(土) 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：250名(申込不要、参加無料、要企画展チケット)

水墨表現のこれまでの歩みや魅力、そしてこれからの可能性について、「みるひと(美術史家)」と「つくるひと(作家)」というそれぞれの立場から語り合います。



島尾 新 氏



園家 誠二 氏

■令和8年度美術館アカデミー

「漢詩文で読み解く水墨画の世界」

講師：李 満紅 氏(茨城大学教育学野 講師)

日時：6月7日(日) 午後2時～3時30分

会場：地階講堂 / 定員：250名(申込不要、参加無料)

展示作品の賛を詳しく解説し、絵との関係を探り、画家が賛と絵に込めたメッセージを読み解きます。詩文と絵画が一体となった水墨画の世界へ旅してみませんか。



李 満紅 氏

■学芸員による鑑賞講座

講師：高田紫帆(本展担当学芸員)

日時：5月30日(土) 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：250名(申込不要、参加無料)

■学芸員によるギャラリー・トーク

講師：高田紫帆(本展担当学芸員)

日時：4月26日(日) 午後2時～3時

会場：2階企画展示室

定員：なし(申込不要、要企画展チケット)

※各イベントは、内容が変更または中止になる場合があります。

Topic

静岡と茨城、二館で“7つの扉／とびら”が同時にひらく

4月25日(土)から6月21日(日)まで、静岡県立美術館では、開館40周年記念展「静岡県立美術館をひらく7つの扉」が開催されます。

本展「富山県水墨美術館コレクション 水墨画を楽しむ7つのとびら」と同様に、“7つの扉／とびら”を鑑賞の手がかりとする展覧会が、静岡と茨城の二つの美術館で偶然にも同じ会期で開かれることとなりました。“美術館”と“水墨画”という異なるテーマから鑑賞体験の入口を示す両展を、それぞれの視点からお楽しみください。

開館40周年記念展「静岡県立美術館をひらく7つの扉」(予定)

会期：2026年4月25日(土)～6月21日(日) 会場：静岡県立美術館

住所：〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田 53-2 Tel：054-263-5755 Fax：054-263-5767

伊藤若冲、横山大観、草間彌生、ピサロ、ゴーギャン、ロダンなど、同館のコレクションから厳選した作品を手がかりに、「美術館とは何か」という問いを7つの展示室から多角的に掘り下げる企画です。



広報用画像一覧

■使用条件

- ・本ページに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ掲載可能です。
- ・画像のトリミング・文字のせはお控えください。
- ・図版には以下のキャプション及びクレジットを明記してください。複数の図版を使用の場合は「すべて富山県水墨美術館蔵」と表記してもかまいません。
- ・画像掲載の際には、当館までご一報ください。

- 1 川端龍子《寒雷》1962年頃 富山県水墨美術館
- 2 平福百穂《獅子図》左隻 1915年 富山県水墨美術館
- 3 富岡鉄斎《四暢図》1894年 富山県水墨美術館
- 4 竹内栖鳳《烏図屏風》1899年頃 富山県水墨美術館
- 5 横山大観《木立に白鷺》1904年 富山県水墨美術館 ※後期展示
- 6 都路華香《白龍図》1928年 富山県水墨美術館
- 7 小杉放菴《漁翁図》1940年代 富山県水墨美術館



1



2



3



4



5



6



7